

国立歴史民俗博物館蔵高松宮旧蔵『詠歌大概抄』翻刻

酒井茂幸

はじめに

本稿で翻刻する国立歴史民俗博物館蔵高松宮旧蔵『詠歌大概抄』（日六〇〇一五八七）は早くに福井久蔵『大日本歌書綜覧』（白帝社、一九六五）により三条西実隆の作とされた、藤原定家の歌論書『詠歌大概』の室町後期の注釈である。外題を『詠歌大概抄』とする同名異書は、諸機関に多数所蔵されるが、国立歴史民俗博物館の蔵書では当該の一本のみであるので、題目の書名に採用した。

解題

本書の書誌及び本文の概要については、国立歴史民俗博物館資料目録「八一」『高松宮家伝来禁裏本目録「分類目録編」』（国立歴史民俗博物館、二〇〇九）に次のようにある。

詠歌大概抄 えいがのたいがいしよ 江戸前期写 一冊 〇五八七（る函三二二）

「装訂」袋綴。「法量」二五・〇×一九・二。「表紙」水浅葱色地に墨流。「外題」詠歌大概抄（原・左・直・書）。「内題」詠歌大概。「本文」半丁七行。「丁数」全八〇丁。「備考」『大日本歌書綜覧』に三条西実隆の注として掲載される書。「私」を付して記され

る注記、「右私 詠ト歌ト同義歟云々」の脇に「逍遙院殿ノ事」を付記されることによる。全編が実隆の講説に基づくかは未詳。ほぼ依拠すべき記載であるが、丁数が実際には八四丁である。また、「備考」については多少補足説明を要する。まず、『大日本歌書綜覧』の記述は以下のとおりである。

詠歌之大概抄 一卷写 三条西実隆

始に此抄作者、此抄発起、詠歌の二字、和歌の濫觴、題号の事等の諸項につき、和漢の古典より類を引き、私解を加えて凡例となし、次に情以_レ新為_レ先以下本文を片仮名交り文にて釈し、終に秀歌之体大略とて、壬生忠岑の三吉野の歌、光孝天皇の若菜の御製二首のみを解釈せり。

題号中にこの原書を賞賛して『八雲御抄二色々ニシルサレドモ、此一紙ノ抄ニ出ザルナリ』といひ、又二条家の道を習ふことは京極中納言の申されしことを本とすべきなりとて、一条禪閣の説を引きたる所あり。◇実隆は公保の子、康正元年に生れ、天文六年薨ず。正二位内大臣に至る。入道して堯空といふ。雪玉集、再昌草及高野日記等の著あり。

この解説は土田将雄『細川幽斎の研究』（笠間書院、一九七六）に受け継がれ実隆説の再検討が成されている。

*さかい・しげゆき
埼玉大学非常勤講師

15 『詠歌大概抄』 〔五〇一・四九四〕

縦二九・四センチ、横二一・〇センチ、袋綴一冊本、墨付八一丁。

16 『詠歌大概抄』 〔特 八四〕

縦二五・六センチ、横一八・三センチ、袋綴一冊本、墨付四七丁。

『大日本歌書綜覧』に「詠歌大概抄一卷写 三条西実隆」としてあげるのが、これら二本に相当する。福井氏が実隆の作としたことは、本の内容からしては、次の記事によるのであろうか。

逍遙院殿ノ事

私右 詠ト歌ト同義歟云々

これ以外に実隆とする内部徴表はないのであるが、あるいは別に確とした本を所持されていたのであろうか。

「秀歌之体大略」は三首の簡略な注があるのみである。

宮内庁書陵部蔵『詠歌大概抄』〔五〇一・四九四〕は、高松宮本と行数・字配りがほぼ一致し、誤写の状態等を勘案すると、該本の転写本かと思われる。『詠歌大概抄』(特「八四」)の方はそのさらなる転写本であろう。

底本は、三五丁・三六丁と三七丁・三八丁とで本文が重複して写されている他、丁捲りの際に生じたと思われる脱落があり、善本の出現が待たれる。

具体的な考証は稿を改めたいが、本書は三条西実枝の講釈を聞書した細川幽斎『詠歌大概聞書』に大きな影響を与えている。三条西家における『詠歌大概』の注釈・研究の実相を示す基礎資料と考え全文翻刻を行った。

翻刻に際しては、漢字・仮名の別、仮名遣・傍書・割注・小字等は原文のままとしたが、通読の便を図るため以下のような処置を施している。

1 旧字・異体字はおおむね常用漢字に改めた。

2 原文の誤写のため意味が通じない箇所には、右傍に(ママ)とした。また、不自然な空白には(アキママ)と記した。その他私注は全て()で表記した。

3 半丁の改丁を「で表し丁数と表・裏を行間に「1才」「1ウ」の如く略掲した。

翻刻

詠歌大概抄(外題・題簽)

詠歌大概

此抄ノ作者 京極黄門定家卿

此鈔発起 後鳥羽院 御子 尊快法親王

梶井宮御所望ニ依テ被書進ト云

此抄ノ時代 定家卿 応保^二二年壬午誕生俊成四十九歟

此抄被進梶井宮之由載頓阿抄是則入道尊快^{1オ}親王^{後鳥羽院御子御事也}然者此抄随著味之覚悟書連之由載之尤可為老後事也

貞応二年壬午六十一歳也可為^{アキママ}年後歟

(一行分空白)

詠為命切説文歌也增句詠歌謳吟也或作咏亦作永文廿三詠懷十七首詠懷者謂人情籍

歌居何切説文詠也徐曰長引其声以誦之也 古作可亦作哥 日他也以声吟咏如草木之有柯葉 又合衆曰歌^{1ウ} 名人声

詠歌大概

詠歌ノ二字

毛詩大序云詩者志之所之也在心為志發言為詩注正義曰詩者人志意之所之適也雖有所適猶未發口蘊藏在心謂之為志發見於言乃名為詩云作詩者所以舒志憤懣心而率成於歌詠故虞書謂之詩言志也句管二万慮其名曰心感物而動乃呼為志々之所遍外物感焉言說豫之志則和条興而煩聲作憂愁之志則哀傷起怨刺生芸文志哀条之情感歌詠之声發此謂也

情動於中而形於言々之不足故嗟歎之云スルニ々々不足故詠歌之不足不知乎之舞足之踏之也注正義曰發言為詩一言哀条之情動於心志之二中出口而形見於言初言之時直平言之耳平言之而意不足嫌其言未申志故次口嗟歎息以和統之嗟歎之猶嫌不足故長引声而歌之長歌之猶嫌不足忽然不知乎之舞之足之踏之如是而後得舒心腹之憤故為詩必長歌也聖以人情之如是故用詩於樂使人歌詠其声蒙其吟詠之辞也然後三得尽其心術焉一言芸文志云誦其言謂之詩詠其声謂之歌然則在心為志出口為言誦言為詩詠声歌播八音謂之為樂皆始末之異名其

(一行分空白)

書曰第一詩言志歌永言注謂詩言志以導之歌詠其義以長其言声依永律和声三注声謂五音律謂六律言当依声律以和条礼樂記云德者性之端也樂者德之華也金石糸竹樂之器也詩言其志也歌咏其声也舞動其客也三者本於心然後樂器從之是故情深而文明氣盛而化神云

正六律和五声弦歌詩第二此之謂德音云之謂樂四

又云歌之為言也長言之也說之故言之言之不足故長言之云々々不足故嗟歎之云々々不足故不知手之舞之足之踏之也注長言之引其声

漢書三芸文志云書曰詩言志歌詠言注師古曰在心為志發言為詩詠者永也永長也歌所以長言之故哀条之心感而歌詠之声發誦其四言謂之詩詠其声謂之歌

(一行分空白)

師說昭明太子文選序云若紀一事詠一物風雲草木之興魚鳥禽獸之流推而廣之不勝載矣

文選別不立歌之部入詩之部内也文選序皐陶歌虞云二又

文曰麟赤雁芝房宝鼎之歌薦於郊廟事文類聚廿四統集唐虞賡哥股肱善哉元首起哉百工熙哉

皐陶歌曰元首明哉股肱良哉庶事康哉大康五弟与其母待大康於洛水之北怨其及故作歌 尚書篇名五子之歌

夏書第三大康失部昆弟五人須于汭作五

五子之歌

漢高祖有天下遷沛致酒と酑上擊筑歌之大風起号雲飛楊威加海内帰故郷前漢曰横齊人秦末白立為齊王高帝得天下召横不到遂白到從者為歌以寄襄情今挽歌自横始也

屈原元歌述大禹之戒以作歌と以叙恐法華經六云歌詠諸如來又歌嘆最勝尊

本朝和哥事不違記之

(一行分空白)

影詠歌字畢竟シテ是ヲ云ハ詠記文歌也增句詠歌謳吟也歌說文二詠也徐曰長引其声以誦之也釈名人声曰歌柯也如草木之有柯葉云と、無心ノ草木モ柯葉ナクハ其本心ヲアラハサス草木六ノ其スカタノ二枝ヲ生シ

葉ヲシケクシ花開ケ実ヲ結フ則ニ皆是草木皆是草木ノウヘノ歌也人トシテ風雅ノ詠吟ヲアラハサレハ草木ノ柯葉ナク花実ヲシラサル

カ如シ歌ハ言ヲ永ストテ吾心ヲ云アラハス処ヲ歌トハ云也サレハ吾国云出ス事ハ皆歌トナル也サレハ今初心之輩モ心ヲアリノマヽニ云

出ス処力哥也 古今序二花ニナク驚水ニスム蛙ノ声ヲキケハイキ

トシイケル物イツレカ歌ヲヨマ^{ヲオ}「サリケルトイヘル鶯ノ花ニナキ蛙ノ水ニスム声ハ自然ノ哥也況ヤ人倫ヲヤ可付眼也」

古今序ニ逮于素戔鳴尊到出雲国始有三十一字ノ詠今反哥之作也

逍遙院殿ノ事

私^右詠ト歌ト同義歟^云と

(二行分空白)

和哥之濫觴事

神代ヨリ始レリトイヘトモ長短不同ニシテ其コトハリ明カナラスサレハ古今序ニモウタノヤウニモアラスコトトモ也トイ、真名序ニモ神代七代時質人淳性欲無別ト云ヘリ上古ニハ長哥ノミニテ今ノ歌スクナシソレハ人ノ志厚クナサケ深シテ今ノ世ノ哥ニテハ云ニタラサル故ニ心ノカキリ思ヲノヘアラハサン為ニ哥ノミヲ詠^オ来レリ今長哥スタレタレハ人ノナサケノアサクナル故ナルヘシ

三十一字ノ詠ハ素戔鳴尊ノイツモヤヘカキノ哥ヨリ始レリサレハ古今序云逮于素戔鳴尊到于出雲国始有三十一字詠^云、同仮名序^云、

凡三十一字ヲカンヨウトスルハ長歌ニハ反哥トテ長哥ヲツ、メテ必詠也^オ」

此外長哥短哥ノ説有口伝事也又旋頭根本等有之

抑和歌ハ此国ノコトハサニシテ貴賤可取翫事 コキ行舟ノアトノ白波

事

歎念事

此二相事^オ」

(半丁分空白)

大概 説文斗量也

槩^事居代切集^{ホム}句作枕亦書作概又大槩ハ大率也 史記伯夷伝其文辞木少概見

何哉^注 索隱曰概是梗概謂略也

文選序^{ヲガハネ}概^見 見^ヘ墳籍^{カネ}旁出^{子史}「概謂梗概謂大略也子謂諸子史謂史書

莊子伝著書十余万言大抵率寓言也^注」索隱曰大抵猶言大略率ハ皆也又大抵師古曰大埤也

大抵師古曰大埤也

孝經天子章云^{ヲホムネ} 蓋^注 天子之孝也 蓋ハ者称スル事較^{カリ}之辞也又陳其大綱

則綱目必举天子之孝道不^レ出此域也^矣 孝經述義云事較猶梗概大略之語也以天子孝有^レ多塗此絹举其大略故言蓋々者語之發端不定之辞也^注」

曰举一綱而万目張故陳其大綱則綱目必举天子之孝道不出此之大域也私謂此書大意モ又如此乎

(一行分空白)

問此書之号^{以聖カ}其理雖明白大槩之称其分限如何 答世俗^{モシ}十^{以テ号ヲ推サハ}之称九八是也○又

称大綱同之綱目雖不知其教引大綱一筋則衆^ハ且^ハ隨^ハ之家^ヲ庭訓雖無教詠歌之故実大略備之而已天台四教ヲ大綱ト云テアリ頓^{テキマ}化儀四教ヲ大綱ト名

ク藏化儀ノ四教ノ綱目ト名ク私藏通別円ナレトモ円教ノ大綱ヲ動セハ藏等ハ細ハ中間ノ小目ハ大綱ニシタカフカ如シ仏教ノ綱ヲシキテ亘法棄

人天ノ惡ヲ濟テ到^二涅槃^一ノ岸^ハ頓等ノ大綱ノ四教ト名ク^注」

題号事

畢竟シテイハ、詠哥大概トハ哥ヲ詠ヘキ大ムネハコレト云義也定家卿和哥ノヲシヘヲカケル物ヲ多ケレトモ此抄ハ誠ノ大方大旨ニワタリテ

大綱ニ綱ノ衆目ノ随カ如キ也初心モ堪能モ此書ノ外ニハアルマシキ也八雲御抄二色ニシルサレタレトモ此^一紙^二抄^三ニ出サル也家^ミノ髓^ハ腦^トテ諸

家ニモテアソフ和哥ノ抄物モ或ハ痛^ノ沙^ハ汰^ヲ制^シ禁^制ノ事ノミヲシルシテ初心末学ノタメ心ノユルキ所ナキ様ナルヲ此抄ハユルクシメシツ、

マヤカニヲシヘ旨ヒロクサトセリ誠一代ノ和哥ノ抄物此一冊ニ決セリ凡

二条家道ヲ習ト云ハ京極中納言定家卿ノ申サレシ事ヲ本トスル也定家卿ハタハ古今ノ本トシテ何事ヲモセラレシナリ故禪閣ノ仰ラレシ貫之方奏覽^{12ウ}本ノ古今トテ正本様ニ世人思之ヘリ至宝ナカラモ望ナキヨシヲノ給^{12ウ}リ其故ハ定家卿家ノ本ヲ定ムル時証本ヲトリヒロイ又了見ヲ加テ將來ノ家ノ証本ト奥書分明ニ見ヘタリ二条家ヲ習ハン輩ハ京極以前ノ本用ヘキニアラサルヲヤ

(三行分空白)^{13オ}

(半丁分空白)^{13ウ}

説文取本也又曰初也朱氏曰新者革其旧之謂也

情以新為先

求人未詠之心詠之 此注ニ心ノ字ヲ用ル心ハ一身主タリ作意ノ根本

同類ヲ除クヘキノ義ナルヘシ

此情ノ字甚深ノ子細アルヘキ也 説文云情ハ人之陰氣有欲者董仲舒曰人欲之謂情

白虎通云六情喜怒哀樂愛惡 又七情喜怒哀樂愛惡欲便是情又晴実也或乍晴^{14オ}又与靖同請ハ受書也

孟子物之不齊物之情也

(一行分空白)

凡情ニ心意識ノ三差別アリ

心ハ本來本有不動心王也 釈名至心ハ織也所識纖微無不貫也荀子曰心ハ神明之舍晦庵朱氏曰心者人ノ虚空知覺所以具衆理^{14ウ}而応万事者也

意ハ有小分別也六根ノ中之意也説文志也察言而知意也徐曰見之於外曰意モ猶抑也含其言欲出而抑之增句心所嚮也

識ハ其物ヲ委細ニ分別了知スル也説文知之增句能別識也又見識也晴ノ字

此識ニ同シ

楞伽偈曰心如工伎兒^{八識妄動}帝如和伎者^七識^{15オ}為伴侶^{五識取塵}志想觀伎衆^{六分別}識者衆人

又云此三者別不別心即意識如火名焰亦名為熾亦名燒薪祇是一心有三差別

或曰過去名意未來名心現在名識或曰在戒界名心在入名意在陰名識

或云雜色危心如六道由心繫為名意如五根屬^{15ウ}於言還是發^{15ウ}言為^{15ウ}詩^{15ウ}

又云情發^{15ウ}於聲^{15ウ}成^{15ウ}文^{15ウ}謂^{15ウ}之^{15ウ}音^{15ウ}○正義曰情發於聲謂人哀樂之情發見於言

語之聲於時雖言哀樂之事未有宮商之調唯是聲耳至於作詩之時則次序清濁

節奏高下使五聲為曲似五色成文一人之身則能如此捫其成文之響即是

為音此音被^{16オ}詣慈管乃此聲^{16オ}成文謂之音一人之作詩先須成樂之文乃成為音

聲能写情之皆可見聽音而知^{16ウ}治乱^{16ウ}歎^{16ウ}樂而曉成裏^{16ウ}其聲發以散是情之

所感入於樂也

礼樂記云樂者心之動也聲者樂之象也文采節奏聲之飾也君子動其本樂其象

然治其飾^{16ウ}極幽而不穩獨樂其悉不^{16ウ}厭其意語想名識如分別屬識

又妙案引俱舍云集起名心思量名意了別名識寶積經云識者謂能了別眼所知

色耳所知聲鼻所知香舌所知味身所知觸意所知法是名為識

名義云礼記云人生而靜天之性也感物而動性之欲也斯乃儒家以最然不動為

性感而^{17オ}遂通^{17オ}曰情吾宗則以明靜真心為性是理具也昏動志念為情是事造也

八識皆屬情也九十二識之当性

詩大序云情動於中而形言於言之不足故嗟歎之^云上ニ見タリ正義曰情トハ

謂哀樂之情中謂中心言哀樂之情動於心志之中出口而形見於言一情動^{17ウ}於

中^{17ウ}還^{17ウ}是在^{17ウ}心^{17ウ}為^{17ウ}志^{17ウ}而形^{17ウ}道備舉其道^{17ウ}不^{17ウ}知^{17ウ}其欲^{17ウ}是故情見而義立樂

於終而德尊^{17ウ}

又云凡音者生^{18ウ}人心^{18ウ}一者也情動於中故形聲^{18ウ}成文謂之音^{18ウ}

又云凡音之起由「人心」生也人心之動物使^レ之^ヲ然^デ也感^ニ於物而動故^ニ形於聲^ニと相褒故生^ニ變^ニ成方^也也^ヲ謂^フ之音^ト此^レ音之及^ニ于威羽施^ニ謂^フ之樂^トと者音之所^レ由^ニ「生^ル」也其本在^ニ人心之感^{スル}ニ於物是故其哀^ノ心感者其声唯^ニ以殺其^ヲ其心感者其声唯^ニ以緩其喜心感者其声發^ニ以散^ス其怒^ノ心感者其声粗^ニ以^ヲ屬其教^ノ心感^ニ者其声直^ニ以廉^ニ其愛心感^ニ者其声^ニ和以柔^ニ六者非性也感於物而后動是故先王慎^ニ所以感^ニ之者^ト」^{18ウ}

(二行分空白)

古今序云

夫和歌者託其根於心地發其花於詞林者也令人之在世不能無為思慮易遷哀樂相變感生於志詠形於言^私此二句則情字ノ心也

神世七代時質人淳情欲無分和哥未作

其後雖天神之孫海童之女莫不以和哥通情天子良辰美景詔侍臣預宴筵者獻和哥君臣之^{19オ}情由斯可見賢愚之性於是相分

在原中将之哥其情有余其詞不足

^私此序各用情字私凡詠和哥ノ心情^ニ成^ニ処^{ナラシ}

情新

此情字甚深也凡コ、ロト云々心意識ノ三差別アリ^{具詳右}詩^ニ情動於中形於言トイヘル是也^{注右}凡京極黃門著作本^{古今集}而立道彼集序云^{19ウ}和歌ハ人ノ心ヲ種トシテト書リ此心ハ動^セサル心也見^ル物聞^ク物ツケテイヒ出セル也ト云処則此情ノ字ノ心^ニ叶ヘリ^{漢音モ}凡情トハ喜怒哀懼愛惡欲ノ七情也詩ノ注云情^ト哀樂ノ情也性然トシタルカ物^ニ感^{シテ}中^ニ發動シテ言^ニアラハルハ処也

凡詠歌之時廻心於天地託性草木禽獸故用情字此情ノ字定家ノ力也^{20オ}

情新^トフリタル事ハ曲ナシト云也其新シキ心トハ如何ナルソト云ニヤカ

テ此注^ニ人ノ未詠心ヲ求^テ詠セヨト訓釈セリコ、ニ學者ノ心アルヘシ新キ事ハ惣シテナキモノ也況先賢ノ詠吟シ尽セル情ナレハ後生ノ胸中ヨリイマタ人ノ不詠心ハホメ得ヘキニアラス立春トイヘハ春ノ來ルト云事ハ誰モ心得ル事メツラシケハアラサラメトモシタテ様ニヨリテ珍クモ面白クモ聞ユル也^{20ウ}

情新トハ此心ハハシメノ心也青色ハ春也是年中ノ初也春ハ又從東來ル是又初也月ヨ花ヨト転スル心ノ初也新ノ字又物とニ転スル心也²¹此直トハ此心ハ未分ノ心也ハタラカヌ心也此心ニ情ノ心アヤフナス也

本ヨリ情ヲ新シクスルトテ情ノトニモカクニモ成ニハアラス風情ヲ新シク可旋其風情トハ^{21オ}ハーイカニモ風情^{21オ}ヲカヘテ同昔ノ詞ニテ可詠也カクアルヲ文情ヲカヘントスレハ異風異体ノ未來記ニ成也是奧秘シテ口伝也風情新ニ成ヌレハ心ハ自新ニ成テ物コトニ明白也此コトハリヲ思シルヘシ

^{下に}求人未詠之心詠之

此詞道ノ肝心也此心ナクハ争力作意ト云テアラシヤ^{21ウ}凡和歌ヲ詠マントスル時ハ道ナキ処ニ向テ求メ及ハス境ニ臨テ新シク詠セントナラヌマテモ心ヲカクヘキ也人ノ作意ヲヘツライテ似サント思ホトノ作者ナラハ哥ニテハアルヘカラスサレハ八雲御抄ニモチカキ人ノ哥ノ詞ヲヌスミトル事ト第一ニ戒シメ給ヘリ涯分人ノ作意ヲヨケテ可思慮コ、ニ此道ノ好士ノ大事アリ學者ノ意ニヨリテ情ノ新キヲ先トストハカリ心得レハ哥力異^{22オ}風^{22オ}異体或又誹諧体ニナル也學者ノ思慮スヘキ処也心ヲ^原新トテ西ヨリ東ヘ月日ノ行ナト云ハンハアタラシキニアラス心ハハタラカスシテ風情ノメクレルサマニヨリテ新シクハ見ユル也委ク吟味シテ能^ト可得其意也

サレハ八雲御抄ニ風情ノイリホカト云フ第四ニタテラレテ云

是ハ余ニ珍事ヲ読マントスル程ニヲカシキ事トモ^{22ウ}多ク聞ユ梢ニヨスル
海士ノ釣舟トヨメルハケニモ松ノ葉コシニハサコソ見ユラメト覺ユ然ル
ヲ舟ヨリ月出シナトスル事アマリノ事ニヤ或者ノ歌ニ女郎花ニ露ノ置タ
ル読トテ花ニハキ玉葉ニハアヲ玉トカヤ読タルトテフシキナル事ニカク
ル人侍キ風情ノ様世ニキタナクコソ聞ヘ侍レコレ程コソナケレ共如此事
多シ

又海士カ海ノ底ニ入テ月見ルラント云心ライリテモ^{23オ}アマハ月ヤミルラ
ント読タリシ者侍キ如此ノ事ハイリホカマテハナケレトモ只其屋ニ無ト^{24ウ}
ニ堪ヌ所ノヲシハカラルハ也雲間行カタワレ月ノカタハレハヲチテモ水
ニアリケル物ヲコレヲ風情ノイリホカノ第一ト云ヘキ凡余ニ風情ヲ求テ
ヨメハキト^{25ウ}キク人ナトサモト思ハス能トソレヲ思慮スヘシ云ト

^{26ウ}富士ノ山ヲナシスカタノ見ユル哉アナタ面モコナタオモテモ^{27ウ}

道理ヲサテトスレハカヤウノ事アリ

今出川院近衛局被語云故大納言子トモニ歌ヲヨマセシニ伊賴卿覺道上人

実伊僧正ナトヨミテ我身ハ九歳也池氷ト云題ヲ兄トモノ哥ヲ見レハ皆薄

氷トヨミテ侍シホトニ同シサマニテハアイナシト思ヒテ池ノ汀ノアツ氷

トヨミタリシヲ大納言與ニ入テ此厚氷ノ哥イツレヨリモヨシイカニモ始

終哥ヨミニ成ヘシト^{28オ}申サレシカ続古今ヨリコノカタイキテ五代勅撰ニ

アイテ哥數モアマタ入テ侍ルハ父ノコトハノ末トヨリテ侍トカタラレキ

兼作集ニモ入仏法ニモタチ入テ一生不犯ノ禪尼也

白糸ノト云テウチハヘテクルヨルマテハ可然アマリニ珍シカラセントテ

水ノワクニ似タリナトハヨシトモ聞エス大カタ秀句ハ哥ノ源ナレト詮ト

スルハワロシ或哥ニヲシカラ^{29ウ}ヌミヤマオロシノサムシロニ何ト命ノイ

ク夜ヒトリネ 文字クサリアシト也

風雲草木ノ時ニツケテ変ル姿ヲ思テ風情ヲ求メヨムハ誰モ同シ事ナレト
心ノイタルト至ラサルト也平懷ナリトモ心ヲステハカケリヨムヘカラス
只哥ハ心ヲ本トスヘキ也哥ノユク衛モ知ラサル者ナマサカシク哥ヨム由
ナトスルハツヤ^{30オ}心ナケレトモ野ヘハ露々ハ涙ノナト云テ面白カル事
尤ヲロカ也

右ニ云ヘル如ク人ノイマタ詠セサル情ヲ新シクセントスレハ思風異体ニ
ノミナリテ立春ヲ春ノコヌヨシヲ云ヒ西ヘ行月日ヲ東ヘ行ヨシヲ云マテ
コソナクトモ如此ノイリホカナル作意見苦シキ趣行出来スル也ソレヲ又
アマリメツラシク情ヲ新シク求ムレハカハル異風アリトテアマリ平懷ナ
ランハ作意ト云物イテクヘカラサルニ依テ此詞ノ下ニ先達見ルニ宜クト
云詞ヲ加テ見ルヲ二条家ノ習トスル也其故ハ求人未^{31ウ}詠之心ト云ニ有二
種

一ニハ昔ヨリカハル作意ナシト人ノ驚ク所

一ニハ常ニ人ノヨミナラハシ或ハ目ニモカハラスフルメキハテタル心詞
ヲ少引替テアラヌ物ニシナス事堪能ノ所為也

飯令古今ノ歌ニイツハトハ時ハワカネト秋ノ夜ノ物思フコトノカキリナ
リケルト云ヘル^{32オ}

秋十五首内裏哥合ニ秋月ヲ定家卿

イツハトハワカヌ時ハノ山人モソラニオトロク月ノカケカナ

冷泉院御屏風ノ絵ニ梅花アル家ニマラウトキタル所平兼盛 拾遺集ニ

ワカ宿ノ梅ノ立枝ヤ見エツランオモヒノホカニ君カキマセルト云フ

老後ノ閑居ノ詠ニ霞中梅ヲ定家卿

トヒコカシ立枝ハ梅ノ見エストモニホヒヲコメテ立霞カハ^{33ウ}

如此引替タル誠新シクコソ

如此之類無限作者所可思慮也^云

八雲御抄云歌ノヨキヤウハ只スクニ艶カルヘキ也

又云サセル事ナキ事ヲヨク云ツ、ケメツラシカラヌ事ヲ新シク云イナスヘキ也昔ヨリヨミ来ル詞イツレカ云ハ、メツラシカルヘキ只云ナシカラニヨリテメツラシキ也又云詮スル所奥義ノ肝心スタニ歌ヲヨメトヲシフルヲ詮トスル^{27オ}所也文ノヤウヲ好ムヘカラス為家卿云哥ハ珍ク案シ出シテ我物ト可持ト申也サノミ新シカラン事ハアルマシケレハ同フル事ナシトモ詞ツ、キシナシヤウナトヲ珍シクキ、キナサル、程ヲハカラウヘシ頓阿常ニ申侍シ新シキ心ヲヤスラカニコトノシクナクテウツクシクツ、クヘシ^{27ウ}云

(二行分空白)

畢竟情ノ新キト云ンハ心ヲ散乱スヘキニアラス歌ハ人ノ心性ト同事也心ヲシツトリトモチ定メテ乱レネハ其心自然ニ自哥ノウヘニ顯ル、也正タイニ土代ヲシテ其上ニテ花ヲモサカスル也此故ニ哥ヲ習ト云ハ心ヲ習ハ此故也此外ニハ異事モナキソト心得也

サレハ古今序ニ夫和哥ハ其根ヲ心地ニツケ其花ヲ開詞林ニ云ヘリ心ヲハタラカスシテ情ノ風情メクラスヘキ也^{28オ}

タトヘハ此上ノ段ニ云ル如ク立春ヲハ誰モ春ノクルト事ニ詠フルセル程ニチトリ替テ春ノコヌト詠セントイハンハ異風也其故ハ立春ノ題ノウヘニテハ春ノ来ルト云力題ノ正タイノ本意也是ト題ノ心地也心地ヲハハタラカサス持シツメタルウエニテ同シ春ノクルト云心ヲモ人ノ未詠心ヲ求メテ風情ヲメクラスヘキ也

愚問 心詞イツレヲ先タルヘキヤノ事^{28ウ}

陸士衛文賦序恒^ニ患^ラ不^レ称^レ物^ニ文不逮^レ意^ニ蓋非知之難^{アキマシ}之難也 歌モ又如此^云

(一行分空白)

詞以古可用 詞不可出三代集先達之所用新古今古人哥同可用之

詞以旧可用ト云ル下ニ詞不可出三代集トアリ又新古今古人哥同可用之^云此義參差ニ似タリトモ云ヘトモ其理甚深也

其故ハイカニ三代集ノ詞タリト云ヘトモ悪カランヲハ不^レ足^レ用^レ之^{29オ}古今ニアレハトテ ノコリナク チルソメテタキ ワヒシラニ マシラナクナキソ チリヌヘラナリ 此類アリ

又三代集ノ外ニ詠出ス詞タリト云トモ其害ナキ物多之雖然是レハ学者ニ悪キ詞ヲ可令除之誠也サテ又新古今古人哥同可用之トハ三代集ニ准シタル詞ノ心也所詮三代集ヲ出ヘカラストイエルハ作者ノ思入ルトコロ心ノキハモナキマ、ニ其限量ヲ出セルナルヘシ此新古今ト指シタルハ定家卿当代ノ集也サレハ^{29ウ}今ハ又タトヒ新統古今ト云マテモ三代集ノ時代ノ古人ノ哥ヲハ取用ヘキ也惣別三代集トカキレルモ定家卿ノ時代ニハコトハリ分明也先後拾遺ヨリ哥ノサマウツリカハレルハ初学ノ者習ヘキニアラス況ヤ金葉詞花^{アキマシ}ハ下ノ事也千載新古今ハ定家卿当代ナルウヘ三代集トサ、レタル勿論也次ノ詞ニテ今ノ当代新統古今以後ノ撰集ナリトモ古人ノ哥ニヲキテハ取用ヘ^{30オ}キ事分明也凡哥ノ事古今和哥ノ頂上集也三代集マテハ其面影殘レリト云ヘトモ次第第二陵遺^{フツ}シテ金葉詞花ニテハタト其風損シケルヲ西行カヨミナラセルヨシ世称之然ルヲ俊成卿千載集ヲ撰シテヨリ已後金葉風ヲカエテ哥ノ道中奥セリ新古今ハマサシク定家撰者ノ仁タリシカトモ五人ノ撰者マチノナル故定家卿ノ本意アラハレス然間勅撰ヲウケテ^{30ウ}新勅撰集カエラヘリ新古今ニハ花カスキタリトテ新勅撰ニ

ハ実ヲ本トセリ其後為家卿又勅ヲウ〇テ続後撰ヲエラヒ進セラル此集正
風体ニシテ花実相兼初心ノ学者ノタメ尤簡要タル由先達稱之此三代ノ撰
集ヲ家ノ三代集ト習也

此後又和哥^(アキマ)セルヲ普光^(アキマ)撰政頼阿志ヲ同シテ風体ヲ改ラレテ再和哥
ノ道ヲコレリ是頼阿^{31オ}カ力也

所詮三代集ヲ出ヘカラストシヘルハ詞ノタシク而モキヨラナルヲ以テ
作タツレハ心モケタカク成デシカモ新シク感深キ者也

凡世上ノ人ノウヘモ多クハ詞ツカイニテ其人ノ心優ニモヤサシクモナル
者也況ヤ和哥ハ詞第一也^{31ウ}

京極黃門ヨミカタノ口伝云心ハ新ク詞ハ古ノ心ハ直ク詞艷ニト云ヘリ心
ノ直カラニ詞艷ナラスハ哥サマ見苦カルヘキ哉

来風体抄云新古今ホト面白キ集ハナシ初心ノ人ニハワロシ心得タラン
人ハ此集ヲ見シ事イカテカアシカルヘキト云^{32ウ}

和哥ハ詞第一タルヘキ事^{32オ}

寂蓮云猪ノシトテワソロシキ物モフスニノ床ト云ツレハヤサシキ也マ
メヤシキ物ヲソロシケニ云イナス無下ノ事也

私案之郭公ヲシテノタヲサナト云類ナルヘシ
安倍清行式曰凡和哥者先^{ニシ}花後^{ニシ}実不^{ニシ}詠古語并卑陋所名哥異名^ヲ只花ノ
中^ニ花ヲ求^メ玉ノ中^ニ玉ヲ探ヘシト云ヘリ^{32ウ}

隆縁云オホオソトリト云テ道經カネスヒサニト云テ異名ニツク尤可畏名
所モ亦如此花ハ吉野紅葉龍田月ニハ更科嬢捨山ニテ足りヌヘシ^ニ

俊頼云心ヲ先トシテフシヲ求メ詞ヲ飾読ヘキ也心アレトモ詞カサラネハ
アシ優ナル心優ナル詞ナケレハワロシト也俊成卿云哥ハ必ヲカシキフシ
ヲ云イ事ノ理ヲ云キラン^{33オ}トセサレトモ詠哥ト云ト只読カケタルニモ打

ナカメタルニモ何トナク艷ニモ幽玄ニモキコユル事ノアルナルヘシヨキ
哥ニナレハ其詞姿ノ外ニ景氣ノ添タル事ノアルニヤ譬ヘハ春ノ花ノアタ
リニ霞ノタナヒキ秋ノ月ノ前ニ鹿ノ^(アキマ)ヲキ、垣子ノ梅ニ春ノ風ノ匂ニ峯
ノ紅葉ニ時雨ノ打ソ、キナトスル様ナル事力浮テ添ヘル也常ニ申様ナレ
ト彼月ヤアラヌ春ヤムカシムスフテノシツクニニコル何トナク^{33ウ}メテタ
シ如此キ姿詞ヨミ似セント思哥ハ近代ナシト云³³

(一行分空豆)

畢竟詞ハ旧ヲ用ヨト云ハ新シク作りタテハアシカルヘキヲト云也サル
ニ依テ新造花麗ノ詞トテ大ナル戒シメナリ宗尊親王 ヤカヌシホヲホ
ヲニタツ^(アキマ)哉此類也コ、モトカ詩ト哥トノカハラヌ所也 詩ハ二字ツ、
ク字ノモトノ字ニテナキヲハツカハサル如ク和哥モ三代集ノ中ヲ出タル
ハアシキ也^{34オ}哥ハ只心ト同ト也三代集ヲ出スト云ハ狭キ様ナレトモ作者
ノ心ノ思入ル所カ心ノキハモナキ程ニイカナル詞ヲカ用ヘキトノカヘス
ノ誠也只返ト詞ヲエシト云義也 コレハ人ノウヘニモアル事也人ノサ
シヨリテ物ヲ云ニヨシ内証ノ心ハヤサシクモアレ先サシヨリノ詞ノイヤ
シキ其人ノ心マテ思ヲトサル、物也イカニイヤシケナル事ナレトモ詞ツ
カイ優美ニヤサシク云ヒナセハ艷ニキコユル物也^{34ウ}

月舟ノ申サレシハ詩ハ詞第一也世上ノアタハカナル時分今日ハハヤコト
ノ外暖氣ナルト云ヘハ関^(アキマ)モヨキニ今日ハヌクイナト云ヘハ理ハ同前ナレ
トモ以外下劣ナル也コレニテ可知ト云³⁵詩サヘ此分也況ヤ和哥ハ詞ニテ

莊嚴シタツル物ナレハ詞ヲ旨トエラフヘシ
又詞ヲ第一トシテ心ヲ無下ニ第二ニハヤキカタシ心ヲ第一ニシテ詞ヲ第

二ニモヲキカタシ人ノサシヨリニ詞ツキナヒヤカニ^{35オ}テサモ人ヲシキ人
トキコユレト立入テ内証ヲ見ル時此奥ケニキタナカランハ口ニ心モ似ヌ

ヤウニテ中ノ心モヲカレステ物ナルヤウナルヘシ哥トテ別ニハナシ世上ノ人ノウヘニ哥ハアル也心詞姿マテソロヒタルハ人ノウヘニテノ秀哥也サレハ第一ニ情ヲカレテハ侍レ

簡要心ト詞トカ合当セスハ歌ニテハアルヘカラス殊当時哥ヨムト思人ノ詠セラルヘハ詞ヲカサリテ面白カラセタルヤウニ見ユレト内証ニタチ入レハ心ト云物ワケナシノ様也コレカ第一道ヨリ嫌フ哥ノ体也詮スル所心ヲ及ハヌマテモサキトシテ及ハヌマテモ詞ヲエラフヘキ也サスルホトニ定家卿ハ詞ヲ撰ヒタル作者也是ヲ冷泉家ニハ為兼卿力和哥ハ上古ヨリイクセノ人ノヨミツクセル心ナレハ心ノ新シキト云テアルヘカラス只詞ヲ新シク詠スヘシトテ異風ヲ立テヨメル事アリキ伏見院時宜ニ相叶テ御風体トテ各此趣ヲ「^{36オ} 奉世テ学ヘリ玉^{アキマツ} 風雅コレ也フリハル」ナト云詞モ為兼卿新造也尤可誠者也ソモサテ新造ノ詞ハ二タヒ用タラハハヤフルクナルヘシ旧キ詞ハイクタヒモシナシカラニテ新シクナル也 学者ノ可思慮所也

凡歌ハ道ヲ本トスレトモヨミカタノ口伝トテ別ニ習フ事アリコレヲ定家卿ノ口伝ニ云心ハ新シク詞ハフルク心ハ直ク詞ハ艶ニト云ヘリ殊勝事也心ノ直カラニニ詞艶ナラスハ「^{36ウ} 歌ノサマ見苦シカルヘキ哉^云」

(一 行分空白)

サテ又此下ノ注ニ新古今人ノ哥ヲ用ヨトアルノ人ノ見アヤマル所也新古今ノ哥ヲトレト云ニハ非スト也古人ノ哥ナラハ当代ノ新古今マテモ取用ヨト云也作者ヨルヘキノ心也代々ノ集ニ今代人ハカリト古人ノ哥多ク入タル集トカアルヲ前ニ云如ク当代ニ又撰集アリトモ作者古今タラハ「^{37オ} 取用ヘキ也古人トハ三代集マテノ時代ノ作者ソ但先達公任ナトマテノヲハ取用ル事モアルヘキ也制セラル、事ハ作者ニアシキ詞ヲ誠禁セラル、

義也伊勢物語ニ山ノ端ニケテイレスモアラナントアルヲ山ノハニケテナト、取用ヘキ事古人ノ哥ナレハトテアルマシキ事也此段ヨリ意ヲツクヘキニコソ

仏法ニモ詞ヲ撰ニヤ何難法花ヲ集セラレン時題号「^{37ウ} ヲタルヤウニ見ユレト内証ニタチ入レハ心ト云物ワケナシノ様也コレカ第一道ヨリ嫌フ哥ノ体也詮スル所心ヲ及ハヌマテモサキトシテ及ハヌマテモ詞ヲエラフヘキ也サスルホトニ定家卿ハ詞ヲ撰ヒタル作者也是ヲ冷泉家ニハ為兼卿力和哥ハ上古ヨリイクセノ人ノヨミツクセル心ナレハ心ノ新シキト云事アルヘカラス只詞ヲ新シク詠スヘシトテ異風ヲ立テヨメル事アリキ伏見院時宜ニ相叶テ御風体トテ各此ヲ「^{38オ} ムキヲ^{アキマツ} 奉世テ学ヘリ玉^{アキマツ} 風雅コレ也フリハル」ナト云詞モ為兼卿新造也尤可誠者也ソモサテ新造ノ詞ハ二タヒ用タラハハヤフルクナルヘシ旧キ詞ハイクタヒモシナシカラニテ新シクナル也学者ノ可思慮所也

凡歌ハ道ヲ本トスレトモヨミカタノ口伝トテ別ニ習フ事アリコレヲ定家卿ノ口伝ニ云心ハ新シク詞ハフルク心ハ直ク詞ハ艶ニト云ヘリ殊勝事也心ノ直カラニニ詞艶ナラスハ「^{38ウ} 歌ノサマ見苦シカルヘキ哉^云」

(一 行分空白)

サテ又此下ノ注ニ新古今人ノ哥ヲ用ヨトアルノ人ノ見アヤマル所也新古今ノ哥ヲトレト云ニハ非スト也古人ノ哥ナラハ当代ノ新古今マテモ取用ヨト云也作者ニヨルヘキノ心也代々ノ集ニ今代人ハカリト古人ノ哥多ク入タル集トカアルヲ前ニ云如ク当代ニ又撰集アリトモ作者古今タラハ「^{39オ} 取用ヘキ也古人トハ三代集マテノ時代ノ作者ソ但先達公任ナトマテノヲハ取用ル事モアルヘキ也制セラル、事ハ作者ニアシキ詞ヲ誠禁セラル、義也伊勢物語ニ山ノ端ニケテイレスモアラナントアルヲ山ノハニケ

テナト、取用ヘキ事古人ノ哥ナレハトテアルマシキ事也此段ヨク意ヲツクヘキニコソ

仏法ニモ詞ヲ撰ニヤ何難法花ヲ集セラレン時題^{39ウ}号ヲ法妙蓮花經トイヘルヲキ、ヨカラストテ法妙ヲ妙法蓮花ト云ヘリ云、生院説

(一行分空白)

三 風体可效堪能先達之秀歌不論古今遠近見宜歌可効其体

風勻会天地之使也大塊之噫氣也王者之声教也又上行下效謂之風^(アキマ)樂記

云移風易俗^注風謂水^{40オ}五之風氣舒失剛柔又化也

体 説文総十二属之身也生也肢也孟子四端四也

却去一成形也又質也

此段ヨリ風体ノ事ヲ云也前ニ心ト云ヒ詞ト云其体ニ別ノ事アルヘシトモ覺ヘヌニ風体ト云ハイカナル事ヲ云ソナレハ是ヲ人ニ取テ申サハミメ容ヨリ始テサマカヘリ衣装ニ到ルマテノ心也人タル物ノ心用イ可然詞ツキノ可然モフ^{40ウ}リカ、リノ惡キハ其人ノ心モ見ヲトサル、初也サレハ風体ハ第一トモカタキ義也此心詞風体ノ三種ノ心ヲ具セスンハ歌ニテハアルヘカラス

愚問云詩モ漢魏盛唐各一体別也歌モ風体可変哉答云漢朝敵ヲホロホシテ天下ヲ取故ニ風ヲ移俗ヲカウトテ詩人才士文体モ代ニニカハレリ我国ハ天神地祇ノ御末国ノ皇統トシテ先皇ノ道ヲ守故ニ歌ノ体大ニ變^{41オ}スル事ナキニヤ但シ其時ノ上才ノ所好ニシタカウ故ニ代ニ聊ヲモムク所カハレリ

是ヲ又コマカニ人ノ上タトヘテ申ヘキナラハ人ノ容顏ニ目モ鼻モ口モ一ツ／＼ハヨクテヲシタテノワロキ人アリ是カ人ノウヘニテノ風体ノ十分ナラヌ事也是ヲ又目ハ目ノアルヘキ処ニ有リ鼻ハ鼻ノ在所ニアリテコソ

可然ヲ当世ノ風体ハチトメツラシク耳ヲ鼻ニトリカヘ目ノアルヘキ処ニ口ヲ^{41ウ}ツケナトシテ面白カルヤウ也是故ニ尤風雅ノ外道也コレハ人取テハ起居フルマイノ義也同シ衣装ヲモコトカラヤサシクキナシヌレハヤサシク見ヘムサトキナセハ其スカタマテ此奥ニナリキ其心中モヲシハカラル、物也出家ニ取テハ威儀力又第一也是出家ノ風体也哥ハ風体第一ノ事也諸抄第一載風体事ヨミ出ル風体アシケレハ其身ニ害アル事アリトイヘリ宗尊親王ハサシモ歌口ニテオハセシヲ為家卿^{42オ}ツネ／＼御風体アシキ由ヲイサメ申サレシニハタシテ世ニ用ラレス其身ニ害アリテ世ヲ愁ヘ給ヒシ時キ虎トノミ用ラレシハ昔ニテ今ハ兒ノアナウ世中ト詠シ給シ事モアリ

人ノ身ニ依テ殊風体ヲタシナムヘキ事也其故ハ毛詩ニ云治レル世ノ音ハ安以テ榮メリ乱レタル世ノ音ハ怨デテ以テ怨レリト云事其声ヲ以テ其世ノ盛衰ヲ^{42ウ}ハカリシル事也我國ハ殊ニ哥ノ道ヨリ万ノ詭ヲ^{コトワサ}コリ来レハイカニモ風体ヲタ、シクト思ヘキ事也代ニノ撰集トテ諸家ノ哥ヲメシアツメラル、モ其時／＼ノ世ノ盛衰ヲシルヘキ為也治レル世ノ音ハ哥ノウヘニ安シテ樂ム心ノ自然ニアラハル、者ナレハサルニ依テ京極黃門撰ヲカル、抄トモイツレモ／＼ツヨキ哥ヲ本トセルヨシ見ユタ、シキ哥ノ詞キヨクウルハシキカ詠吟スルニメテタク聞ユル也^{43オ}或ハ人ニヲクレ或ハ身一ツニ愁アル人ノ述懷ナトハ各別ノ事也ソレサハ猶以俊賴朝臣運ヲハツル歌又俊成卿述懷百首等更ウラヒレイマ／＼シキ様ナル哥ナシ何況ヤ身ニトリテノ憂ナキニ心詞ト、ノハスシテイマ／＼シキ姿ナル哥ハ不可然事也

私但當世又イリホカナル俗難ノワケモナキ事ナリ法樂ナトニ凡制スル詞アリ制セヌ事アルヲ口伝^{43ウ}ノナキマ、ニワケモナキ難ヲカクル事は尤

不可然事也定家卿百首卷頭ノ哥ニアハレナト云詞アリ女御入内ノ御屏風ノ中ニモ當時ハキラウヘキ哥トモアリ此道理ハ道ヲシレラン人ナラテハ分別アルヘカラサルニヤ

サテ又イカナルヲ風体ノアシキトハ云ソサレハ雨中吟トテ定家卿十七首ノ和哥詠シテ此風体ノヲコラン時哥ノ道ホロヒタリト知ヘシトテ雨中吟ト号スル習アル事也其^{44オ}哥ノ中ニマタレ行光モクラキ月ヨリモ雨ニキコユル荻ノ音哉ウチシメリ薄ノウレ葉ヲモリツ、西フク風ニナヒク村サメ星モナク雲間モシラヌ雨ノ夜ニ猶マタル、ハ山ノ葉ノソラ此十七首ハ未来記五十首ヨリモ姿ウレヒレ物ムツカシク心ハハレ、シカラススヨカナラヌ心スル哥也凡哥ニイマ、シクウレハシキサマトテ嫌フ風体也

(一行分空白)^{44ウ}

秀哥

秀哥ト云ハ歌ニ取テ無上ノ事也第一ノ難義タルニ依テ委ク被注之所謂堪能ノ先達ナラスモ自然秀哥ヲ詠出ル事ハアレトモソレハ本トスルニタラスイキアタリ物也

又堪能ノ先達ナレハトテ毎度ニ秀哥アルヘキニアラスサル故ニ堪能先達ノ秀哥ニナラヘト云也大切ノ類也^{45オ}

私ニ云唐人ハ一首ニテモ千歳ノ後マテ名ヲヨハル、者多シ日本ノ習ハイカニ一旦秀逸アレトモ地ノ秀逸ナラヌ人ヲハ堪能トモ先達トモイハスコハカ詩ヨリモ歌ノ大事ト云ハ是也

コハヲ三重ニカハレタリ先堪能ト云ハ其道ニタヘタル者也其道ニ能ク至テ器用ト達者トノ相兼タルカ堪能也先達ト云ニテ又一重ウヘヲ云也器用ト達者トヲ^{45ウ}兼タル人ニモ道ノ伝受ノ浅シテ習口伝ノナキ人アリ是全

先達ニハアラスサルニ依テ堪能ナレ共先達ナラス人アリ先達ナレトモ堪能ナラヌ人モキハメテアル也此ニカ相兼イテハノ事也サテ又秀歌ニ習フヘシト云ヘルニテ又一重メテタリ堪能ニテシカモ先達ナル人モ時ニ取テ歌ノヨマレスイテキヌ事アリサル程ニ二本ト見習フヘキニハ堪能ニテ先達ナル人ノ中ニモ秀逸ノ歌ヲ眼ニカケテ習ヘト云也^{46オ}其見習フヘキ哥ハ何ト分別スヘキソト云ニ此注ニ古今遠近ヲ論セス宜哥ヲ見テ其体ニ習ヘトイヘルハ上古中古今ニ渡ルヘキ也サテ此宜哥トハ末学後生ノ眼ニテハ何トシテ見ワケンソト云ニ此奥ニ百余首^{アル百首}ヲ古今ヲ交ヘテノセラレタル是也此哥ヲ手本ニ見習ヘキ也コ、ニ学者ノ用心アリ此奥ノ哥ニ見習ヘト申トテ心ヲ取詞ヲトレト云ニハアラス哥ノ面影ケイキ哥ノフリ^{46ウ}ヲ似セヨトノ教也哥ノ風体ハサマ、ニアル者也一テツニハ心ヲト、ムマシキ也人ノウヘニモ生得風流ナル様体ナル人アル又実メニ身ヲオサメ行迹ノスハリタル人モアリサレハ一途ニトリカタメテハ思マシキナリ

シヨセンイツレノ風体ニテモアレ詠吟ノ能ト、ノヲリタランヲ風体ノヨシトハ云ヘキ也コ、カ毛詩ニイヘルト一意也

效胡教切亦乍倣通作効^{47オ}

風体一秀哥ニハ一大切ノ教也

サシモナキ哥人モヨキ哥ハヨメトモスヘキ哥ノヤウ更ニ同物ニアラス哥ヲ見シリ心ウル事此道ノ至極也譬猶管絃堪能ト耳キク事ハ各別也歌ヲヨクヨメトモ心ヲシラヌ人多シ管絃モ道ニ長シタル人此笛ハシラミタリ此琵琶ハ緒ユルイタリ云ハンニ其席ニテハケニモト聞也其席力ハリテハ次ノ日ナトハ聞シリカタキカ如シ長セル人ト長セヌ^{47ウ}人トノカワリアルヘシ是ヲ心得テ知ラント思ハ、道ヲ深クスヘキ也哥ハ只詮スル所フルキ詞ニ依テ其心ヲツクヘキ也不論古今遠近一注ノ如ク一

為家卿云哥ノ姿ノ事詞ナタラカニ云クタシ^{アキマゴ} ケナハ姿ノヨキ也同風情ナ
ントモワロクツ、ケツレハアツハレヨカリヌヘキ材木ヲアタラ事ト難セ
ラル、也サレハ案センヲリ上句ヲ下ニナシ下句ヲ上ニナシテ事カラヲ見
ルヘシ上手ト^{48オ}云ハンハ同事ヲキ、ヨクツ、ケ成也只ニク事ハ一字二
字モ耳ニ立テ卅一字ナカラケカル、也マシテ一句ワロカランハヨキ句マ
シリテモ更詮ナルヘカニスワレカ身ハトカヘルト成ニケリ年ハフレ
トモコイハワスレス 此歌初五文字ナクテアラハヤト昔ヨリ難シタリ尾
キレニ聞ユルモイタクネカハスハシ鷹ノ見トリノツハサ身ニソヘテ猶雪
ハラウタノ御狩場ヨキ哥ト申タレトコノミ詠スマシキ体也^{48ウ}

日モクレヌ人モ帰ヌ山里ニ峯ノ嵐ノ音ハカリシテ^{後拾遺} 俊頼朝臣

日クルレハアフ人モナシマサキチル峯ノ嵐ノ音ハカリシテ 上手ノシ
ワサニテユラ／＼ト聞ユル也 又云昔ノ哥ハ時代替テ今ノ事ニハ叶マシ
キト思ヘリ大方ノアリサマハ誠サセル事ナケレトヨクヨメル哥トモハ寛
平以往ニモイタク勝劣ナシト申タリ近代ニモ基俊 俊頼 顕輔 清輔
俊成ナトハフルキ姿ヲマヨル^{マヨ}、ヨシ申メリ其人／＼^{49オ}コソ^{49オ}上手ノキコヘ
侍レハ猶其姿ヲ好ミ読ヘキコソ

此比哥トテ詞ハカリカサリテサセル事ナキ物アリ和哥ハナカメテキクニ
ヨキ哥ハシミ／＼ト聞ユル由申フキタリ

(一行分空白)

四 近代之人所詠出之詞雖一句謹可除棄之

七八十年以来人所詠出之詞努々不可取用之

是ヨリ以前ノ心ト云詞ト云風体ト云此三ニテ哥ノ^{マシ}奥^{49ウ}葉ハ^{マシ}極^{49ウ}レリコレヨ
リハ欲重宣此義而説偈言ノ心也心ヲ新シク吾手カラトツクリ出シ詞ヲハ
フルキニヨラハ近代ノ人ノ心詞ヲヘツラウヘキ事ナシ此義カ哥ノ肝心タ

ルニヨリテ猶訓尺セル也此段又簡要ノ処也人ノ随分ト新シク思ヨテヨミ
出ス心詞ヲ取用ルハ盜賊也此意ナラハ作意ト云物アルヘカラスサテ此近
代ト云ハイツ比ソト云ニ此下ノ注ニ七八十年以来ノ人ノ哥ヲ努／＼ト制
セリコレカ則ノ詞ト云事也^{50オ}

難波カタカスマヌ波モカスミケリウツルモクモル朧月夜ニ

駒トメテイサ水カハン山吹ノ花ノ露ソフ^{マシ}

アフ坂ノ梢ノ花ヲフクカラニ嵐ソカスム関ノ杉ムラ

此類也今ノ世ノ哥ニモ人ニ其哥ノ眼タル処アリソレヲ見分テヨケヨト云
也

サテ此七八十年トサス処ハイツ比ヲ云ヘキソト云ニ建保四年拾遺愚草ヲ
撰給シ其比ヲ以テイハ、崇徳院ノ^{50ウ}御代天治大治ノ比ニアタルヘキト心
得ヘキ也定家卿二条院応保二^{午壬}誕生タリ此抄毫味ノ覺悟トシルセルヲ以
テ見レハ尤老後ノ事也貞応四^{壬午}六十一才可為後年之後歟^云

私所詮金葉以来ヲハ用ヘカラサルト心得ヘキ也近代之人可詠出―七八十
年―

近キ人ノ哥ノ詞ヲ盜取事哥人極テ痛ム所也^{51オ}古キ事ヲ准シ新シキ詞ヲ思

テ云出タル事ノ彼力羨シキマ、ニ容易ニアシク取ナシテ云ツレハ本ノ哥
ノ詞モ耳ナレ今ノ哥モ無下ニキタナク後代ニハ何レカ先ナリケン不^ニ勘
知^{ニハ}只雜モ読ケル事ニアラン極タル大事也サレハ^{トテ}半春霞立田ノ山久堅
ノ月ノ桂之類ハ二句ツ、ケテモ不苦ニ文字三文字モ新キ事ヲ取ルカアシ

キ也万葉已下アルニ事ヲ撰シテ二三句モ^{51ウ}ワサトカヘテヨメル類アシ、
ソレハ別ノ事也

雅経哥 ナク音モ夜半ノ

露ノヌキ夜半ノ嵐 家隆

定家卿雅經ノ哥家隆ノニ似タルヨシ難シ申キ一字二字ト云トモ耳ニタツ
事ノ取力アシキ也建曆ノ時哥合有家力末ノ松山ヤマスコトヘト^云
雅經ナト頻ニ感シ申シヲ同年七月ニ五首会ニ足引ノ⁵²ヤマス心ニカヘリ
テモトヤカテ読タリシ雅經サシモ有家ノ羨ムヘキニアラヌタニ如此マシ
テ已下ノ人我モ^ハト取ル第一ノトカ也但老耄シテ同事ヲヨム是ハ難ニ
ハアラス隆信朝臣ハ^{アキヤ}アル也

カイカネハ山ノスカタニウツモレテ雪ノ半ニカヘル白雲

白雲順徳院

京極禪門山姿建保ノ比秀逸^云

家隆

桜花サキヌル時ハカツラキノ山ノスカタニカヘル白雲⁵²

基定朝臣

涼シサニ秋風チカク成ニケリ又タチカヘルコロモテノ森

入道民部卿秋風近ク近世ノ哥歟^云

白露ノ玉江ノ筆ノヨヒ^ハニ秋風チカク行堂哉新勅撰

(一行分空白)

吟登兼寺梅檀閣 醉倚王家祇瑠<sup>老の体
を相</sup>述

籠中嬌鳥暖猶眩 簾外落花閑不掃^{直書体}

五 於古人哥者多以其同詞詠之已為流例⁵³

サキニハ近代ノ人ノヨミ出ス心詞ヲ取用マシキ事ヲ制ス

此段ヨリハ古哥ヲ取ヘキ様ヲ明ス也

古人ト云ハ三代集以往ノ作者ヲ指也金葉以來ノ作者ニハ限ス

文段ハカクレタル事ナシ古哥ニ於テハソレト見セテモ取用ル事連綿也ト

云也

頼阿云本哥ハ後拾遺ナトマテノ哥也堀川院⁵³百首作者モ俊頼朝臣哥ナト
近來トル事アリトハ八雲御抄ニ見タル歟 百首作者モ人ニソヨルヘキ同
作者モ人ノロニアル名哥ナトソレトヲホエルヲ取ヘキニヤ証哥ニハ近
世先達哥モ引用侍也取^事古哥^ヲ第一ノ大事也上手殊ニ別也但上手モ不^レ能^レ
取^事古哥^ヲアリ上手ニ非サル人モ古哥ヲ能取アリ或ハ詞ヲ取テ替^ル心アリ或
ハ心ナカラ取テ物ヲ替^ルアリ或詞ヲ取テ風情ヲ替タルモアリ風情ヲ取
事尤見苦シ

心ヲ取テ物ヲ替ルトハ

月ヨ^{古今}、シ夜ヨシト人ニ告ヤラハコテフニ似タリ又スシモアラヌヲ

我ヤト^{万葉}ノ梅サキタリト告ヤラハコテフニ似リチリストモヨシト取レリ

コレハ心モ詞モカヘスシテ梅ヲ月ニカヘタルハカリ也此類多シ

詞ヲ取テ心ヲカヘタルハ其類多シ本哥トルヤウトシ⁵⁴モナクテ少シ

ヲカヘテヨメルモ多シタトヘハ

人コトハ夏野ノ草ノシケクトモイモトワレトシタツサハリナハト云ヲ

里人^{古今四}ノコトハ夏野ノシケクトモカレユク君ニアハサラメヤハト取レリ

アシ引ノ山タチ花ノ色ニイテ、我恋ナシヲヤメン方ナシト云ソ

ワカ恋ヲシノヒカネテハ足引ノ山立花ノ色ニ出ヌヘシト取レリ

然之海人ハメカリシヲヤナイトマナミクシケノヲクシトリモミナクニ

ト云ヲ

新古^{新古}アシノヤノナタノシホヤミイトマナミツケノヲクシモサ、スキニケリト

取レリ⁵⁵

スマノアマノシホヤキ衣^{キヌ}ノ藤^{アキマ} マトヲニシアレハイマタキナレス云ヲ

是ハ哥ヲトルトシモナクサナカラ取レリ

スマノアマノシホヤク海士ノ藤衣

結フ手ノイシマヲセハミオク山ノイハカキシ水アカスモアル哉ト云ヲ
結手ノシツクニ、コル山ノ井ノアカテモ人ニワカレヌル哉ト、レリ

ミワ山ヲシカモカクスカ
行水ニカスカクヨリモ^{55ウ}

ミルヲ川アリテ行水

コトニイテ、イハヌハカリヲ

右ノ四首皆万葉ノ旧キ詞ヲトレリ

古哥ニ衣タニナカニアリシト云ヲ

後撰ニツラカラヌ中ニフルコソウシトイヘ此類数シラス

上古ハカクノ如シ 中古ハ哥トル事マレ也

近代ハ又多シ其中ニモワサト耳ニ立テ是ヲ取タルヲ^{56オ}詮ニテワカ心モ詞

モナキ哥返ニ此道ノ魔也尤好ムヘカラス

私 誠ニ哥ヲトルニ吾力ノ入テ一手カラナキハナマシイニ哥ヲトラヌニハ
ヲトレルコトアリ尤モ学者ノ

雲埋老樹空山裏彷彿千声一度飛ト云ヲ横川歟ノ彷彿千声一葉飛トセラレ
タルコレ等^{56ウ}カ本哥ヲトル手本也一字ヲキカヘテ一向各別ノ物トナレル

上手ノ手カラ也疎影橫斜楚人弓ナトヲ今ノ世ノ人取用ナト不可然ノ事也

無媒經路草葉、自古索林遠市朝公道世間只白髮貴人頭上曾不饒ト云ヲ山

谷力何為陳師道白髮三徑草ト廿八字ヲ十字ニツ、メテ吟味アル尤妙処ト

イヘリ^{57オ}杜子美力渭北春天樹江東日暮雲ト云ルヲ 山谷力平原秋樹色沙

麓暮鐘色ト云ハハルカヲトレルト云リコ、モトヲ分別スヘキ事也

近代俊頼力哥ナトヤウヤク取事ニナリタリソレモ猶近キ哥ヲ取ニ似タリ

哥ニトランニハ猶フルキ哥ヲ取ヘシ東三条右大臣ノ鶯ノ笠ニヌフテフ梅

花折テカサ、ン^{57ウ}躬恒力老モカクレヌ此春ハトヨメル少チカキ世ノタメ

シ也朝力鶯ノ声ナカリセハ雪キエヌ山里イカテ春ヲシラマシ大江千里カ
鶯ノ谷ヨリ出ル声ナクハ春クルコトヲ誰カシラマシ

サナカラ取レリサレトモ是ハ哥ヲトル作法ニハアラン自然ニカヨヘル歟

凡古哥ヲ取事哥ニマメナル人ノ所為也誠ニ一ノ事ナレトワレトメツラシ

クヨミタランニハ猶ヲトルヘクヤ捻テ末代ノ人今ハ哥ノ詞モヨミツクシ

サノミ新シクヨキ詞アリカタケレハ只^{58オ}ヨハ、トアル万葉ノヲソロシ

ケナル古哥ナトヲ取ナシテマヘヲ掃フハ必シモ能ヨメリトハ見ヘ多トケ

チメアラントスルハカリ也

凡古哥ノ詞ヲトル事先達難スル事也

私 サレトモ今ニワイテハ連綿也コレ古哥ヲ取事ヲ制スルニハアラス

古哥ヲ取事ノ大事ナルニ依テ如此云ナルヘシ

取本哥事 詩家有換骨^{58ウ}

謂用古人意而点化^{シテ}之使加^{タクミツ}レ工也

李白詩白髮三千丈綠愁似箇長ト云ヲ荊公点化之云纈成白髮三千丈^云

此類多

(一行分空白)

耳チカニアルヘキ事

(一行分空白)

文章ニ三易アリ易見 易識 易読^{59オ}

頓抄云取本哥様ニ六種アリ本ヨリ五ツアリ一ツカキヲトシタルニヤ

頓抄云本哥ヲ取事万葉ヲ古今ニモ取タレトモ昔ハ稀ニ見ユ正治建仁

ノ比ヨリ盛也其取様サマ、也

一常ニ取様ニハ本哥ノ詞ヲアラヌ物ニナシテ上下ニヲケリ アカキコソ

思ハン中ハハナレナメウラタニ後ノ忘レカタミニト云ヲ

醍醐太政大臣

チル花ノ忘レカタミノ峯ノ雲ソヲタニノコセ春ノ山風^{59ウ}」

一本哥ノ心ヲ取テ風情ヲカヘタル

サ夜フクルマヽニ汀ヤ氷ラントヲサカリ行シカノウラナミト云ヲ

シカノウラヤトヲサカリ行波聞ヨリ氷テ出ル有明ノ月 家隆

一本哥ニ贈答シタル体

心アラン人ニ見セハヤツノクニノ難波ワタリノ春ノケシキヲ

カスミ行ナニハノ春ノアケホノニ心アレナト身ヲ思フ哉^{為家卿}

一本哥ノ心ニナリカヘリテ然モ本哥ヲヘツラハスシテ新シキ^{60オ}」心ヲヨメル体

テリモセスクモリモハテヌ春ノ夜ノ朧月夜ニシク物ソナキ

大空ハ梅ノ匂ニカスミツクモリモハテヌ春ノ夜ノ月^{定家}

一詞一ヲ取タル哥

ソヲタニ後ノワスレカタミニノ本哥ニテ

俊成卿

俊成卿

ウキ身ヲハワレタニイトフイトヘタヽウラタニオナシ心ト思ハン

花ノサカリヲ面影ニシテモ此類也^{60フ}」

此取ヤウ詞ハカリ案シタル哥ニアラス

但取古哥詠新哥事五句之中及三句者頗過分

五段メノ小段ノ二也無 二句之中三四字免之 古哥ヲトレト云

ハヽ学者ノ心乱リナルヘキ故ニ但トヲサヘテコレヨリ本哥ノ取ヤウ

ヲ明サレタリ

八雲ニモ二句ナトハ如何カン三句トル事尤見苦^{云61オ}」

(一行分空白)

猶案之 此条可付眼

案之ト云ニ二ノ心アルヘシ二句ノ上三四字ノ処ニワカ力入ヘキ事一

捺別哥ニ後悔病トテ初一念と相定テ必後悔ノ事アリ此故ニ能心肝ニ

銘シテ案セヨトノ二ナルヘシ

八雲ヲ^{アキマヒ}ヘシ

彼日休ハ百練ノ為学千練成句^{玉屑七61ウ}

貫之ハ一首ヲ十日廿日ニ詠之^云

寂連ハ五臟六腑錯乱シテ本心ヲ乱ル程ナラスンハ正味ノ哥ハ不可出来ト

云ヘリ

頓阿云哥詠ニ二ノ様有ヘシ

一何ニモシテ道ノ佳境ニ至絶妙ノ秀哥ヲト思ハヽ如入三昧心ヲ面影ノ

幽ナル所ニ留メテ人ノフルサヌ所ヲ案スヘシタヤスク難出来ケレハ不

可不沈思卅六人^{62オ}」

(一行分空白)

以同事詞古哥詞頗無念歟^{以花巻以月舞}

以四季哥詠恋雜哥以恋雜哥詠四季哥如此之時無取古哥雜歟

アシ引ノ山郭公 ミヨシノヽ吉野ヽ山

久堅ノ月ノ桂 時鳥ナクヤ五月

玉銚ノ通行人

如此事全雖何度不憚之^{62ウ}

(一行分空白)

年ノ内ニ春ハキニケリ

月ヤアラヌ

桜チル木ノ下風

ホノ／＼トアカシノ浦

如此類雖二句更不可詠之

(一行分空白) ^{63オ}

六 常觀念古哥之景氣可染心 景氣トハ心ノ妙処詞ノ妙処ニハ限ヘカラス
心詞ノ外ニイハレヌ妙処ノ風情ナルヘシ

此段ヨリハ学者ノ修行ヲ明ス觀念ハ自心發得ノ境界也常ノ字可付眼也

此道ノ好士ノ思ヘキ所ハ此一段也寛平以往ノ歌ハ高詞ヤスラカニ心幽ノ

余情カキリナシ依テイツレノ ^{63ウ}先達ノ教ニモカハラヌハ唯此一義也袋

草子 ^{マツ}俊賴云折節ニカナイタル哥ヲ詠スルハ読ニハマサレル也

院歸京時供奉ノ人舟中ニ不寢シテアル間ニ郭公一声鳴万人新哥ヲヨ

マハヤト思フ時分ニ女房ノ声淀ノワタリノマタ夜フカキニ ^{イツカタニキテユラン}

詠哥人ニ感嘆シ難忘 ^ト云

同抄恵心僧都云 ^{64オ}

七 殊可見習者古今伊勢物語後撰拾遺三十六人集之内殊上手歌可懸心 ^{兼能ノ先達ト云ヘル句ニカル人皆習者勢}

此段ヨリハ哥ヲ詠スルニ無才無学ニテハ叶カタキ事ヲ明ス文旨ニテハ和

哥モ無下ナル事也花鳥風月ノウヘノ一両首ニテハブンザイモ見エネトモ

哥数ノカサナルニ從テ才学ノ有無アラハルハ物也才学アレハトテ面ニタ

テハ古事來歴ヲ云ハコノマサル事ナレトモ才学ノナキ人ノ ^{64ウ}哥ハフミオ

トシ多キ物也才学ノアル人ノ哥ハ錦ニテツルキヲツハメルヤウ也尤ハツ

カシキ物也普光園ノ撰政仰歟 文字ノ字ハ涯際ナケレトモ又申サハキハ

モアルヘシ和哥ノ広才ト云イハ極ムル人アルマシキト仰ラレタルト也仮

名ノ ^{アキマツ}ニテヨシアシコソ差別ハアレ誰モ卅一字ハツハクル物道ノ至テ極

テ無ハ和哥ノ道也此抄ニシルサルハ処モ哥ヲ詠スル人ノ才学ナクテハ叶

マシキ事 ^{65オ}分明ナルハ此段ノ殊ニノ字ニテ見エタリ詩書百家ノ書多キ中

ニモ殊更見習フヘキ物ハ古今伊勢物語後撰拾遺ト云也サレハ此殊ノ字ニ
テ広才ニナクテハト云教ヲ分別スヘシ

サテ此古今後撰ノ中ニ伊勢物語ヲ置事不審アリ一説ニ古今ハ花実相兼タ

ル集也後撰ハ実ノ過タル集也伊勢物語ハ花ノ過タル物ナレハ花実ヲ取合

テ ^{65ウ}古今ノ次ニ置ト云説アリ不用之当流ノ心ハ伊勢物語ハ時代ハ古今ヨ

リ以前ノ物ナレ共古今ハ此道ノ奥義ナレハ先第一ニ置之サレトモ伊勢物

語ハ時代久キ物語ナレハ後撰拾遺ヨリ下ニ置キカダシ故ニ第二置シト也

(一行目空白)

卅六人集之内

卅六人集ハ公任卿ノ撰ヒ出セル集也ソコハクノ歌人ノ ^{66オ}中ニ清撰之儀ハ

サル事ナレトモ其三十六人ノ中ニ猶上手ノ秀哥ニ習ヘト也

此段ニ殊ノ字ニアリ学者ノ心ヲツクヘキ処也ハシメノ殊ニハ地ノ学問

ヲ ^{アキマツ}タル中ニモ殊ニ古今ト云ヘリコハノ殊ノ字モ卅六人集イツレモス

ヘキニアラスサレトモ其中ニモ殊上手ノ哥ノ心ニカケヨト也其上手ノ哥

トハイツレソト云ニ此注ニ人丸貫之忠岑伊勢小町等之類 ^{云 66ウ}

此上手ノ哥ト云ヘル尤無双ノ事ナルヘシ此抄ノ端ニ堪能ノ先達ノ秀哥ニ

効ヘシト云ル同心也サテ此注ニ五人ヲアケテ類ト云ヘルハ此外ニモ其仁

アルヘシト見エタリ類ノ字口伝アル事也

八 雖非和哥之先達時節之景氣世間之盛衰為知物由白氏文集第一第二帙常

可賞翫 ^{深和}時節景氣ヲ先達ニ対シテ云ル ^{アキマツ}トヲホユルト心ヲ得道ニ ^{67オ}引入

ル物ハ時節ノ景氣世間ノ盛衰也尤面白シ時節ノ景氣世間ノ盛衰ヲハナレ

テハ和哥ノ媒ハナキ物也七情モ皆時節ノ景氣世間ノ盛衰ヨリ生ス 時節

ノ景氣ト云ハ雪月花鳥ノ事ハ申ニ及ハス朝ノ露夕ノ煙山川草木等ノ事 ^河

難カコレヲワキマヘサラン私ニ花ニムカヘハ其感ヲ生シ月ニムカヘハ其

感ヲ生シヌルコレカ時節景氣ノ至ス処也」^{67ウ}

時節ノ景氣ノ千要タル事ハ仏法ノ上ニモアルニヤ淨土ノ莊嚴ノイツトワ
クヘキニアラスサヘ心猶留ルハ黄金樹林ノタノ色渡留ニウサレハ上品蓮
台ノ曉ノ楽ト云ヘリ況ヤ於人間哉

凡哥人ハ人ノ四^マモイタラヌサカイ物ノアヤメモワカレスヤミノ夜ノ空ニ
モ心ヲツクヘキ事肝心タルヘシサレハ家持力鵲ノワタセル橋ニヲク霜ノ
シロキヲミレハ夜ソフケニケル此哥^{68オ}ニテ可觀念也ソモサテヤミノ夜ノ
何ノアヤメモワカヌ夜中ニハ景氣モアルマシキヲ哥人ノ眼ハ各別ノ事也
又時節ノ景氣ヲハ時ノ時宜ノ方ニモ取ヘシ人ノキケンヲ取ヘキ事也所謂
業平惟喬ノ親王ニワリナウトハメラレテ苦シクハ思ナカラ枕トテ草引結
ソコトモセシ秋ノ夜トタニタノマレナクニ

ウヘシウヘハ秋ナキ時ヤサカサラン花コソチラメネサヘカレメヤ」^{68ウ}

又芹川行幸ニ行平卿翁サヒ人ナトカメソ狩衣ケフハカリトソ田鶴モナク
ナルトヨメルハ自ノ齡ヲ思テ詠ケレトモ時ノ御門五十七ニナラセオハシ
マシケレハ御景色アシカリケリ^云、誠二人ニヨリテ制禁大事ナル事也サ
レハ時宜ヲ時節ノ景色ノ内ヘ入ル事面白クヤ

又世間ノ盛衰是又作者ノ殊ニ可思コトハリ也昨日ハサカヘヲコル者モ今
日ハヲトロヘタル者モ再タヒサカヘ又ハ有^{69オ}為^オ転変ノ境ナレハ老少ノ前
後サタマラス今日ハ人ノ上ヲカナシメトモタニハ北郊ノ露ト化スルタク
ヒ人間眼前ノアリサマ也哥人ノ無下ニ無厄心ナルハナシ哥ノ本意ハ世間
ノ盛衰ノ觀念ニアリ凡哥ヲヨムハ差相ヲハナレテ唯当一念ノマテ也サ
レハコソ神明仏陀モ盛応アル道ニテコソハアレ卅一字ノウヘニ諸法ノ空
理モ又実相ノ大道理モコトコトクフクメリ無常ヲ觀ル事尤哥ノ根原也サ
レハニヤ撰^{69ウ}集ノ中ニモ必無常ノ部ヲタテリ集ハ^エ顯覽ニ備ル物ナレハ無

常ナトヲハイミサクヘキ事ナレトモ哀傷ヲ載スルヲ以テ子細アルコト、

知ヘシサルニヨリ撰者ノ意ケウニヨリテ哀傷ヲ軸ニフミタル集モアリ又
祝ヲ軸ニシテ哀傷ヲ中卷ニ入タル集モアル也和歌ノ本分ノ田地ニ至ラン
人ハ發明トモ申ヘキ也又盛衰ハ人ニカキルヘカラス昼夜ノ月日皆成住壞
空却ニハナル、事ナシ此理ヲ思ヘハ不^{70オ}レ言言葉^ヲ「チニ動者也サレハ道
ノ專一只此一事ニヤ

為知物由 物増句事也

大学物有本末 事有^{コト}二^{ワサ}始終^一

又云 致^{事ハ}知^在格^イ物 注物猶^レ事也

此道ハ仮名四十七字ヲ出スシテ心ヲ得ヘキ物ト云ヘトモ才学ナクテハ叶
マシキノ心也慈鎮和尚モ此義ヲ述給ヘリ

白氏文集 白樂天唐代宗大曆八^壬誕生^{70ウ}

宜宗台中元^{本朝仁明天皇 承和十四年庚}卯^丁率^{七十五}才

白氏長慶集五十卷 凡二千一百八十九首^云

元稹序長慶四年十二月

文集第六十七東林寺白氏文集記前後所著文大 小合二千九百六十四首勒

為六十卷偏次既畢納于歲中 大和廿年夏

聖善寺白氏文集記其集七 六十五卷凡三千^{71オ}

二百五十首開成元年閏五月十二日

私云當時所傳之集七十二卷^{三千五百 九十四首云}至廿卷律詩也又至奥有律詩聖善寺ノ文

集ヨリ百余篇多歟

正説 白氏文集七十卷掇三千五百九十四首

第一帙^{七卷} 三百三十首

第二帙^{廿卷} 四百七十二首第一第二帙トハ此本ニテノ事也私

第三帙^{七卷} 六百十五首^{七十一ウ}

一帙各七卷ツ、也十帙アリ

帙 直質切 書衣也広句書帙又次序也

白氏文集第一第二帙ト云ルハ白第一第廿二至ハ律詩也

此内ニ樂府^{琵琶}比巴引長恨哥等モアリ

王昭君上陽人陵園妾モ此内ニアリ誠此文集ニウトクンハ無下ノ事ナルヘシ凡樂天カ文ハヤスラカニシテ然モアハレ深キ故ニ深ク和哥ノ心ニ通ストハ云ル也^{七二オ}常可賞翫トハ左右ヲ放タス見ヘキノ心也其故ハ深ク四哥ノ心ニ通スルト也古人ハ誠不斷文集ヲハ傍ヲ避ケサルト見ヘタリ源氏スマノ卷ニ左近ノ時モ琴一ツサキハ文集ヲ隨身ト見エタリ

(一行分空白)

始ニハ心ノ新ヲト云ヨリ一と此道ノ学者ノ可思慮之大綱也仍哥ヲヨムノ大概明者哉^{七三ウ}

○此段ヲ右禪閣ノ御説ニ雖非和哥先達時節景氣ト云ヨリ白氏文集常可握翫ト云マテヲ一段ニ見テモ文段可然ト^云時節ノ景氣モ世間ノ衰盛^{スエイセイ}モ物ノ由ヲ知ランニモ白氏文集尤肝心ト云ナルヘシ但師説ノ分二段ニワケテ見ト也

(一行分空白)^{七三オ}

和歌無師匠只以旧哥為師染心於古風習詞於先達者誰人不詠之哉

此段ハ初メニタチカヘリテ和哥ノ大スチメヲ云ル者也常ニ和哥ノ景氣ヲ觀念シテ心ニ染ヨト云ル此外ニハ師匠ナキナルヘシ上件ノ段ニ詠哥ノ旨ノ一とニ挙テ此段ニ至テ始末ヲ決セリ和哥ハ自然^{テキマツ}得ノ境界ナレハ人ノ教ヘニヨラサル者也サレハ安キニ似テカタク難ニ似テ安シ其境界^{七三ウ}ニ入ヌレハ悟リヤスキ道也和哥ノ道ノ教ニカハハラヌ処アルハ諸道ニモアル

事也醫師ノ医ト云ハ道也ト云ト同心也 病証ヲ一とニ明ニシテ諸方ニ出セルトイヘトモ方ノマ、ニ藥ヲホトコシテ療治ヲ得ス甚一方ノウヘニ加減スル時立処ニ好驗ヲ得ル是人ノ得ノ義也人ノ教ノ外也教外別伝也

又人ノ教ルニ凡カクレナキ在所ノソコト云マテハ人ノ言説^{七四オ}ニカハハル事処也タトラスシテ集処ニ至ルハ行人ノキヨウ次第也諸道ハ皆ソコマテトハ教フル物ナレ共其ヨリウヘハ言説ノ及ハス境界アル也

サレハ和哥ヲ詠スルハ心ノヲコル所也人ノヲシヘニヨラスサレハニヤ父堪能ナレトモ子必シモ其心ヲ読事ナシ師匠風骨アレ共弟子又其体ヲウツサス堯ノ子ノ堯ニ似タルモナシ又藍ヨリ出テ藍ヨリモアヲキ事アリ父ハ不堪ナレトモ^{七四ウ}子ノヌテ出タル人モアリ不斗境界也

莊子^ニ齊恒公カ書ヲ読ヲ聞テ輪扁ト云車ツクリカ恒公ニ問テ云ク是ハ何事ソト恒公曰是ハ文トテ古人ノ作りヲキタル物也輪扁曰サテハ詮ナキ物也其詞ハカリト云ヘ共更ニ其人ノ心アラハレカタシ只古人ノ糟粕也我車ヲツクルニ種とノ故実多シ其ヤウヲ心ニハ皆ウカヘタレトモ人ニ教フル詞ナシスミカネヲアテ、スル事ハ教ヘニアリ此輪タテノ^{クツロウ}甘^{七五オ}ホトライニテ車ハ行物ナレハスクナル物トモユカメル物トモ定マレルヤウナケレハ人ニ教フル詞ナキ也我七十二ナルトイヘトモイマタ子ニ伝ヘス書モ此定ニコソアルラメト云リ和哥ノ道モ是ニ同シ心ニハヨキヤウモ悪キヤウモシルトモカラモ人ニ教フル力ナシサレハ哥ヲ心ウルハヨムヨリモ大事也深キ心シラスシテ深キ心ヨマン事カタカルヘシ^云俊成卿夫和哥ハ大聖文殊ノ御智恵ヨリオコレル事也^{七五ウ}誠ニ只胸中ノ方寸ヨリ出サル風情人ノ教ニ依ヘカラス一切ノ芸ハヨキ師匠ニ逢テ学フニ空シカラス此道ハ只心ノ至ルト至ラサルト也

以旧哥為師

旧哥トハ何ノ時ヲサスヘキトナラハ万葉ヲ先トシテ寛平御哥合三代集マ
テヲ旧哥ト云ヘキ也能因長能力宅ニ至テ相談能因者和哥ハ何様可詠哉長
能^{76オ}云山フカミ落テツモレル紅葉ノカハケルウヘニ時雨フル也如此詠
ヘシト云リ是ヨリ師匠トスト云^云

(一行分空白)

染心於古風及ハヌマテモ学者ノ思ヘキ処也古歌ノ景氣ヲ觀念シテト云ル
同心也和哥ノ安心ハ此一語也

(一行分空白)

習詞於先達^{76ウ}

此条不審アルニ似タリ上ノ詞ニ和哥ニ師匠ナシト云テ又コ、ニ詞ヲ先達
ニ習ハ、ト云ヘルハ事語相違ニ似タリ然トモ詞ヲ先達ニ習外ニハ師匠ナ
シト云儀也師説也

私云安心ニテモアレ參禪ニテモアレ吾心ウル所ヲ自得也タルマテニテ
ハ落居ナシ師ノ印可シ証明スル処ナケレハ心地ノユカミヒツミヲ知ヘ
キニアラス詠吟シ出ス処ニハ無師匠也詠哥シテヨミ出セルウヘニテ師
セツハヲ蒙^{77オ}ヲユルサル、道ナクテハ也習ノ字ハ鷹則字習スト云事ア
リ羽日ニストカキタル字也人ニ能物ヲ、シヘラレテ習フ時力此習ノ字
也 論語ニ学而時習ト云是也

(四行分空白)

秀哥之体略

随蒙昧之覺語書連之古今相交狼藉無極歟

耄 莫報切說文年九十曰曲礼八十九曰住僖志也武帝記衰夫老一
味 莫佩切闇也不明也

桓武後胤賜平姓好風子也家集ニハ兵佐定文云^云

平サタフンカ家哥合ニヨミ侍ケル

壬生忠岑^{78オ}

拾一
春立トイフハカリニヤ三吉野、山モ霞テ今朝ハミユラン

此哥言語道断ト云ヘリ公任卿九品ノ哥ヲ撰定之時此哥ヲ上品上

生ニ入十体ニハ無之道済カ十体ニハサタリ

義曰余情カキリナシドコカアラウスルソアノ故^{アキマ}ノ吉野ノ奥ノ春ヲモ
シラヌ処マテモ此春色ノ及ホメ春光ノモル、処ナク無偏ナルヲアノ吉
野ト云深山マテモ春ノ至レルヨ也^{78ウ}

壬忠岑ハ泉大將定国ノ隨身ニテヤウ、兵衛佐マテナリ枅テ天下ノメク
ミニ漏タルヲ下ニ愁ナルヘシ我身ノウヘニハ春色モ来ヲサルヨト也古今
長哥ニモ此ノ心アリ

有明ノツレナクミエシノ哥ノ事

曰此哥トキハナル松ミトリモ春クレハ今一シホノ色マサリケリ
ノ歌ト心ヒトシカルヘシ^{79オ}

(半丁分空白)

五十五代 光孝天皇時康 仁明第三子在位三年

仁和ノミカト^{アキマ} ニヲハシマシケル時二人ニワカナ給ケル御哥

君カタメ春ノ野ニ出テワカナツムワカ衣手ニ雪ハフリツ、

凡哥ニ有心ノ任無心ノ体ノニアリ是ハ有心ノ体也

有心トハ心ノ残ルヲ云ヘリ詞ノタラヌト云哥ニハカハルヘシ能

分別スヘキ也

光孝天皇親王ノ御時ノ御哥也民ノウヘヲ思食タル王道ノ肝心也

陽成^{80オ}

光孝

注ニ雪ハ苦ミノ方也君ヲ思フ志シ偏ニ苦シキ事ヲ堪ヘ凌ク由也^云レモ打ムキテハ唯ウチ也

光孝天皇 五十三ニテ位ニツキ給ヘリ殊当代陽成院ハ繼帝ノ君ニモアラヌヲワカ天下タモツヘキ事ヲイソク心ハマシマサテ其身親王ニテノ御時ニイカニモ宝祚長久ニト思給ヘル殊勝ノ義也君モ長久民モ豊ニト也^云檢別若菜ノ事ハ人日ニ菜養ヲ服スレハ其人除万病⁸⁰邪氣^云七種ノ養ヲ供スル事寛平延喜比ヨリウルハシク公事ニハナレルニヤ列可引勘大意ハ所ハイツクソ春ノ野比ハイツクソ余寒ノ雪サムキ時分ツム人ハタソタカアルヘキソ親王ホトノヤンコトナキ人ヲカヤウニヲタチ給ハ何ユヘソ君カタメ也⁸¹